

読み物教材

郷土の先人 Ver. 4

こころ

かごしまの心

きょう せんじん

～今日、どの先人？～

小学校
1・2年



「あなたの おし は だれですか？」



鹿児島県教育委員会

もくじ

「主題名」

〔教材名〕

【登場する人物】

—「かんしやの
気もち」――「わたしたちの
家ぞく」……――

たちの 家ぞく か
上白石 かみしらいし
萌音・上白石 もね かみしらいし
萌歌【 もか

2 「ちがつていても なかよく」——「ママが
教えてくれたこと」 おし
ま
ま
が
… 6

AI
あい

3 「みんなの ために」 ————— 「利右衛門さんの からいも」 10

【前田 利右衛門】

4 「あい手の 気もちを 考へ

考かんが

15

【西郷 隆盛・土持 政照】

4 「あい手の 気もちを 考えて」 — 「たすけられた さいごうさん」 ···

5 「くじけない 心で」 — 「くるしさを のりこえて」 ···

【西郷 隆盛・土持 政】 さいごう たかもり つちもち まさ

【鶴田 つるた 義行 よしゆき】

6 「ふるさとを
思う おも
氣もち」 — 「人を
思い おも
ふるさとを
思う おも
」…

八島 太郎

じどうの みなさんへ

この本は、かごしまと かかわりのある 人たちの お話が のっています。どのお話も その人が
かごしまで すごしながら 思つたことや 考えたことが 書かれています。このお話から 考えたこと
などを 自分の 生かつに 生かして みましょう。

※ じゅぎょう いがいでも 読んでみたい 人の 話が あつたら 読んでみましょう。

※ この本の ほかにも かごしまと かかわりのある 人たちの お話をのせた本に 「郷土の先人」・
「続・郷土の先人」 「不屈の心」・「ふるさとの心」 があります。学校においてあつたり、
鹿児島県教育委員会の ホームページに のつてたりするので 読んでみましょう。

かんしゃの 気もち

わたしたちの 家べく

うつくしい 歌声と えんぎで、かんきやくを む中に
 させる ふたり 二人の しまいが います。その ふたり 二人の 名前は、
 あねの 上白石萌音さんと いもうとの 上白石萌歌さんです。
 みなさんの 中には テレビなどで 見たことが ある人も
 いるかも しれません。

二人は かごしまで 生まれそだち、今では はいゆうや
 歌手の かしゆ ふたり ふたり 二人のことについて はなし はなし はなし
 二人のことについて 話を します。

二人が 子どもの ころの ことです。

萌音さんは、とても元氣でいろいろなことにきょうみをもつてすごしていました。はじめて会う人にもすすんであいさつをしてすぐになかよくなることができました。

萌歌さんは、きれいな空をながめたり、すきなことに

む中になつて一人であそんだりすることがすきでした。

二人は、お父さんやお母さんから「人の目を見て

話しなさい。」「人に会つたときは、この人にありがとうつて言えることはなかつたかなと思いかえして考えなさい。」「考えないでものを言つてはいけないよ。」

などとよく言われていました。だから、

二人は、「お父さんやお母さんのことを見

きびしい。」と思つていました。

二人は大きくなり、萌音さんは



大學じゅけんの べんきょうが うまくいかず
きもちが おちこんでいた 時が ありました。

その時 お父さんと お母さんから

「一生けんめい やつた けつか たどりついた
場しょが 一ばん いい場しょだよ。」

と 言われました。お父さんと お母さんの この ことばを
きつかけに 萌音さんは「うまく いかなつたこと、つらくて
しようがなかつた ことは なによりの エネルギーになり、
しつぱいも たからものになる。」と 考えることが
できるように なりました。

萌歌さんも、十八才の時、はいゆうの じごとを して いて
自分の 力が 足りないと おちこんでいた ことが
ありました。その時 お父さんと お母さんから、



「どの おしごとも 大へんだから 自分だけが 大へんだと
思わないほうが いいよ。はらくことは いたみが あつたり
つらい思いを したりすることも あるから 自分で
えらんだ道に セきにんを もつて やりなさい。」

と 言われました。お父さんと お母さんの ことばを
きつかけに 萌歌さんは、「自分だけが 大へんでは ないんだ。
自分を ささえてくれる 人たちも くるしいことが あるから、
自分も がんばろう。」と 考えることが できるようにな
なりました。

萌音さんと 萌歌さんは、きびしく しかつてくれたり、
たくさんのことをおしごとを 教えてくれたりした お父さんや
お母さんの ことばを 今も 大切に しています。そのことばは、
二人が きんちょうしたり ふあんになつたりした 時に

ゆう気をくれるものになっています。二人は、お父さんや
お母さんのことをおもふたり思つて、「ありがとう。」といふ気持ちで
心がいっぱいになります。



2

ちがつていても なかよく

ママが 教えてくれたこと

ま ま

お し

AIさんが書いた
「ハピネス」のかし

このかしを書いたAIさんは、中学生まで
かごしまけんですごしました。
お母さんはアメリカ シュッ shinで、
AIさんもアメリカですごしたことが
ありました。
このお話は、AIさんが子どものときの
お話です。



アンティー。これは、日本語で「おば」といういみです。
わたしには、たくさんのがんてりーがいます。はだのちがう
ちがう アンティー。生まれた国がちがう アンティー。
出会いつて すこしあたつていなアンティー。でも

※おば・お父さんやお母さんの姉妹にあたる しんせき

みんな 友だちで、家ぞくのようになかよしです。

この アンティーたちは、わたしの 本当の しんせきでは
ないけれど、わたしが 生まれた 時から、ママが みんなの
ことを アンティー と よんでもいたので、しぜんに
そう よんでも なかよく しています。

ママは、とても 明るくて だれとでも なかよく

なります。そして、いつでも だれにでも おなじように
話しかけたり、ハグをしたり します。だから すこし

はずかしいなど 思つてしまふ ことが あります。

ある日、車いすを つかっている人に
出会いました。わたしは、どうしてよいか
わからずにもじもじ していました。

※ハグ・・・あいさつの かわりに あい手を だきしめること



すると、ママは いつものように その人に すぐに
かけより、声をかけ、ハグを しました。わたしは、
「ええっ。なにしているの。そんな ことを したら
ダメだよ。」と 思い、とめようと しました。でも ママは、
「へい！ 友だちよ。」

と わたしに 言いました。そのことばを 聞いて、わたしは、
はつと しました。それから わたしは たくさん
アンティーたちを 思い出しました。

「そうだ。みんな友だち そして 家ぞく だつたな。」
自分とは ちがうから なかよくなれない かかわることは
できないと 思つてしまつて いました。

そうではなくて、自分とは ちがうからこそ、あい手を
知りたくなるし おたがいの すてきな ところに

気づくことが できること。そして、ちがつても ちがいを
みとめ合^あい ささえ合^あう ことが 大切^{たいせつ}だ ということを
ママが 教^{おし}えてくれました。

わたしは、ママのハグを もういちど 見^みて みました。
すると これまでよりも、もつと 心^{こころ}が あたたかく
なりました。



みんなの ために

利右衛門さんの からいも

今から 三百二十年ほど前 山川（げんざいの 指宿市山川）に 前田 利右衛門さん という わかものが いました。山川は むかしから 米や作もつが そだちにくい ところ だつたので 利右衛門さんたちは 「たくさん 食べて おなかいっぱいに なりたい。」と いつも おなかを すかせて いました。 ある時 琉球に 出かけた 利右衛門さんは、 見たことがない なえが はたけに たくさん うえられている ことに 気づきました。 近くの人に この なえに ついて たずねると



【山川（指宿市）があるところ】

※ からいも・・・さつまいも

※

琉球

おきなわけん

名前は「からいも」と言い、どんなところでも、そだつことがわ
分かりました。ゆでたからいもを食べた利右衛門さんは、
「ほくほくして、くりのような、あまい、あじがする。うんまか。
うんまか。」

と、言いながら、ぺろりと、ぜんぶ、食べて、しました。

利右衛門さんは、「このからいもは、おいしい上に、おなか
いっぱいになる。からいもを、山川で、そだてよう。」と
思い、からいものなえを、一つ、もち帰りました。

山川に、帰った利右衛門さんは、からいものなえに、毎日
たっぷり、水をかけ、かれないよう、大切に、そだてました。
からいものつるは、ぐんぐんのびて、元気に、そだちましたが
花は、なかなか、さかず、からいもも、できませんでした。

「もしかしたら、山川では、からいもは、そだたないのかも

しれない。」と心ぱいになつてきました。

あつい 夏が すぎて 秋になり やつと 花が さきました。

しかし、からいもの はっぱと つるは だんだんと 元気が なくなつていきました。「だいじに そだてたけれど どうどう

からいもは できなかつた。なにが よく なかつたのだろう。」と 利右衛門さんも 元気が ありません。「もう 思いきつて

ひきぬこう。」そう思つて 利右衛門さんは からいもの つるを

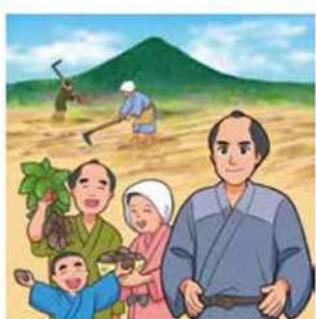
ね元から 力いっぱい ひきぬきました。すると たくさんのからいもが 土の 中から 出てきたのです。利右衛門さんは 「あつた。あつた。からいもが あつたぞ。」

と 大きな声で さげびました。 利右衛門さんは、はじめて からいもを そだてたので からいもが 土の中に できることを 知らなかつたのです。



さっそく 家ごくで にて 食べました。みんな え顔で
よろこんで 食べました。みんなの 顔を 見て 利右衛門さんも
うれしく なりました。来年は もっと たくさんのからいもの
なえを 作って 山川の 人たちにも 分けてあげよう。そして
おいしい からいもを 食べさせて あげようと
利右衛門さんは 思いました。だから しゅうかくした
からいもは、ぜんぶは 食べず なえを 作るために 大切に
とつておきました。

利右衛門さんは、いろいろ ためして、たくさんのからいもの
なえを きんじょの 人に くばり、そだてかたも
ていねいに 教えて 回りました。にても、
やいても おいしい からいもは、みんなに



大へん よろこばれ、遠くからも なえがほしいと 人びとが
やつてきました。

利右衛門さんの おかげで、山川では、からいも ばたけが
どんどん 広がつて いきました。いちめんに 広がつた
からいもばたけを、利右衛門さんは うれしそうに 見つめて
いました。

山川では からいもを そだてるように なつてから
食べものに こまることは ほとんど なくなりました。
村の人びとは 利右衛門さんに 心から かんしゃしました。



【げんざいも やまがわ はたけ ひろ ばたけ 山川の畑に広がる からいも畑】



【利右衛門さんが まつられている 德光神社】



【利右衛門さんの 名前が 書かれた石碑 (徳光神社)】

あい手の 気もちを 考え
て

たすけられた サイゴウさん

みなさんは、西郷隆盛さんを知っていますか。

これは、西郷さんがさつまのおとのさまを

おこらせてしまい 沖永良部島に つれて

行かれた時の お話です。

沖永良部島で 西郷さんが 入るろうやは

せまくて かべも ありませんでした。食じも

昼と夜だけで、たいたごはんに おゆをかける
とても そまつな ものでした。

西郷さんの おせわをしていた 土持政照さんは

「このままでは、西郷さんが びょう気に



【西郷隆盛さんが すごした ろうやの ようす (和泊町 西郷南洲記念館)】

なつてしまふ。」と考かんがえ、ごちそうをつくらせて

出だしました。しかし そのたびに 西郷さんは、

「お気きもちだけ ちようだい いたします。」

と 言いつて、食べたることは ありませんでした。西郷さんが、
ろうやの 中なかで 日ひに 日ひに やせ おとろえるのを 見た

土持つちもちさんは、このままでは 西郷さんは

死しんでしまふと 思おもい、いそいで だいかんに
会あいに 行いきました。

「おねがいが あります。とのさまから
めいれい書しょには 西郷さんを かこいの 中なか
入れよと 書かいて あります。家いえの 中なか
つくつた ザしきろうが かこいです。そこに



※ だいかん・・・そこにすむ 人びとの 生活を よりよくする人ひと
※ ザしきろう・・・いえの中に ある ろうやなか
※ ひと せいかつ
※ ひと ひと

西郷さんを うつしてください。今までは 西郷さんは
死んで しまいます。どうか 西郷さんの いのちを
おたすけください。」

すると、だいかんは、しばらく じつと 考えてから
「ううむ。わかつた。よく 気がついてくれた。家の中の
ざしきろうに 西郷さんを うつしなさい。」

と 言いました。

土持さんは 大よろこびで 西郷さんの ところへ つたえに
行きました。

「西郷さん、家の中の ザしきろうに、おうつりに なることに
なりました。ざしきろうが できあがるまでは このろうやを
出て わたしの 家で ゆつくり おすゞしください。」

すると、西郷さんは、大つぶの なみだを ながしながら、

土持さんの話をきいていました。そして、

こう言いました。

「土持さん 本当にありがとうございます。
わたしは このろうやの中で いつか

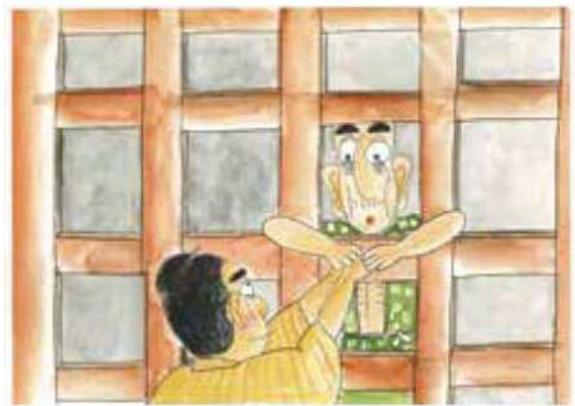
死ぬだろうと思つて おりました。」

二人は ろうやの中と 外から 手を かたく
にぎりしめ ないて よろこび 合いました。

西郷さんは、ざしきろうが できるまでの間、土持さんの
家で すこし 土持さんのお母さんが つくつた おいしくて
えいよう たっぷりな ごちそうを いただき おふろにも
入らせて もらいました。

土持さんは、ざしきろうを つくる 大工さんに

「ゆっくりで いいから。一日分の しごとを 三日ぐらいに



わけ 分けて しあげる ように。」

と 言いました。

しばらくして ザしきろうが できあがりました。

「土持さん このザしきろうは まるで ごてんの ようだ。
わたしには もつたいない くらいです。ありがとうございます。」

西郷さんは、 なんども なんども おれいを 言つて

ザしきろうへ 入つて 行きました。

西郷さんに とつて、 土持さんは いのちの おんじんであり
かけがえのない そんざいに なりました。

※ ごてん・・・とのさま などが すむ ごうかな 家 いえ

くじけない
心で

へるしあを のりこえて



【鶴田義行さんの どうぞうと 石ひ(鹿児島市)】

鹿児島市の 伊敷という ところに 上の
しゃしんの ような どうぞうが たつて
います。そのとなりの 石ひには こんな
ことばが のこされて います。

苦し	うちは	ダメ
鍛錬不足の	証拠	
苦しさに 慣れ	平氣に	
本当の 苦しさ	なつて	
探究が		
始まる		

【いみ】

くるしいと 思っている うちは まだ どうか しているとは 言えない。れんしゅうを
かさねて、くるしさになれて、さらに 高い 目ひょうへ むかって いくことが 大切です。

みなさんは この人が だれか 知つて いますか。

この人は、鶴田義行さん。オリンピックで 日本で はじめて二大会れんぞく 金メダルを かくとくした

水えいせん手です。一回目の 金メダルを かくとくした
一九二八年の アムステルダムオリンピックでは
二〇〇メートル ひらおよぎに 出場し オリンピック

新記ろく（二分四十八秒八）を だしました。この
オリンピックで まさか 日本人が ゆうしょう するとは

まわりの だれもが 思つて いません でした。鶴田さんの
名前は いっきに せかいに 広まつて いきました。

そして 四年後の ロサンゼルスオリンピックでも
鶴田さんは 二〇〇メートル ひらおよぎに 出場し

金メダルを かくとく しました。その時の 記ろくは

※ アムステルダム・オランダの しゅと
あむするだむ おらんだの しゅと

※ ロサンゼルス・アメリカの おお と市
ろさんぜるす あめりか おお とし

二分四十五秒四で、前のオリンピックの時より三秒四も
はやく二回目の金メダルをかくとくしました。

このロサンゼルスオリンピックで日本チームは
六しゆ目のうち十二このメダルをとり

「水えい王国日本」と言われるようになります。

そして鶴田さんにあこがれ水えいせんしゆをめざす
子どもたちがたくさんあらわれるようになります。

そんな大きろくをもつ鶴田さんですが、けつして
はじめからおよぎが上手だったわけではありません。

子どものころ鶴田さんは家の前をながれる甲突川で
きょうだいやなかまとよくあそんでいました。ある夏の
あつい日。鶴田さんはその川でおぼれそうになつて
しました。そのころはまだおよぐことが

※ 甲突川：鹿児島市をながれる川

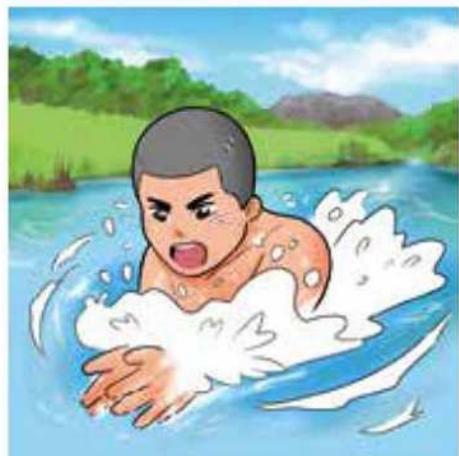
できなかつたのです。

まげずぎらいの 鶴田さんは それから およぎの
れんしゅうを はじめました。もちろん はじめは ほとんど
前に すすむことが できません。

「くるしいなあ。でも くるしいのは れんしゅうが たりない
しようこ。まだ まだ がんばるぞ。」

そうして 何ども 何ども およぎつづけて
だんだんと およぐことが できるようにな
なつてきました。それどころか なかもたちが
川の ながれに そつて およいでいる中、
そのながれに さからつて 一人 上りゅうへ
上りゅうへと およいでいく すがたも

見られるように なりました。



※ 上りゅう・川のながれの 上の方

大人になり はたらくように なつてからも おとなの

時間を 見つけ 錦江湾で およぎの れんしゅうを

しました。そのころには 鹿児島と 桜島までの

おうふく ハキロメートルを ゆうゆうと

およげるようになつていた そうです。

この 子どもの ころからの

くるしさを のりこえた けいけんが

オリソビックの 金メダルに

つながつて いつたのです。



【オリンピックに 出じょうした時の 鶴田義行さん】

※ おうふく・ 行って かえつてくる こと

6

おもいのいはん

人を
思ひ
ふるさとを
思う

白いすなはまにうちよせるなみの音。
しろいすなはまにうちよせるなみの音。

うみをわたるそよ風。

おじいさんに なつた 八島太郎さんには、遠く アメリカの
ち
だい
やしまたろう
おも
だ
とおく
あめりか

ころに 自分に たくさんのこと を 教えて くれた 山や海、
川や木、鳥や虫たち、いろいろな しごとを している 大人たち。
その どれもが 生き生きとした うつくしい ものでした。

ねじめ やしま
根占です。八島さんは ゆたかな し
自ぜんや とも 友だちと すごす
八島さんが、生まれたのは げんざいの
う 南大隅町の みなみおおすみちょう

時間が 大すきでした。

大人になつた 八島さんは

やしま

画家となり

絵の べんきょうを したいと

思つて

アメリカへ わたりました。

アメリカでの 生活は

せいかつ

苦しい ものでした。

しかし たくさんの人 に よろこんで

もらえる 絵を かくために

いつしきうけんめいに 絵の べん強を

がんばりました。

ちょうど そのころ、日本と アメリカが

せんそうを はじめました。せんそうは しだいに はげしくなり

たくさんの人 が なくなりました。八島さんが、ふるさとや

友だちを 思わない 日は ありませんでした。八島さんは、



【根占（南大隅町）が あるところ】

「いのちを　だいじに　してほしい。生きてほしい。」「人と　人が　いのちを　うばいあう　ことは　ぜつたいに　あつてはならない。」と　平和への　つよい　思いを　絵にかいて　日本へ　とどけました。

かなしみに　つづまれた　せんそ者が　やつと　おわりました。
八島さんの　ふるきとの　根占も　せんそ者の　ひがいを

うけました。せんそ者の　ために　大切にしていた　自ぜんや
友だちも　うしなつて　しまいました。八島さんの　心も

大きな　かなしみに　つづまれました。

その後、八島さんは、ふるきことで　すこした　日びを　えがいた
絵や絵本を　かきました。

友だちと　わらいあつた　日び、心の　ささえとなる
人との　つながり、大切に　してきた　思いや　ねがい　などを

いくつもの 作ひんに こめたのです。これからのみらいを生きる 子どもたちのために。今を 大切に してほしいと。

八島さん やしま が かいた さいごの 絵本作ひん 「海浜物語」 えほんさく かいひんものがたり は つぎの ように はじめます。

日本の 南の はしの しまに、 遠く にほん みなみ とお
はなれて、 と会の もの音が まつたく
とどかない 海浜が ありました。
むかしながらの しづけさが、 ずっと
そのまま、 そこに ありました。



【「海浜物語」の ぶ台である 吹上浜(日置市)】

アメリカにいた八島さんは、ふるさと鹿児島のうつくしいすがたと今をいつしょうけんめいに生きる大切な人びとでした。

八島さんは、ふるさとの根占で

すごした日びをえがいた
作ひんをかいています。

『からすたろう』・『村の樹』・

『道草いっぱい』・『海浜物語』

など、八島さんの少年時だいの
思い出やふるさとへの思ひが

つたわる作ひんです。

ぜひ、読んでみてください。

【八島太郎さんがえがいた作品
『からすたろう』】(偕成社)

からすたろう



【子どもたちにかこまれる画家・絵本作家
八島太郎さん(本名 岩松淳さん)】
(株)創風社



かごしまけんりつはくぶつかんにあるきょうりゅうかせきです。
このかせきの後ろにあるおおえやしま八島さんがえがきました。
子どもが大きさだった八島さんが、鹿児島の子どもたちに
見てほしいと思ひをこめてえがきました。
かせきとともにきょうりゅうたちが生きていたはくりよくある
じ時だいがわかるとてもきちょうなものです。

みなさんへの メッセージ



【AIさん】

今、わたしはお母さんが言っていた
「みんな友だち」ということばがとてもすてきだと
思っています。「ちがうことが、いけないのかな。」
「みんなおなじなのではないのかな。」
「もともと、みんなをくべつしなくても
いいのではないかな。」そう思つています。

どこにすんでいても、どんなことばを
話しても、みんなに楽しくいてほしい、元気で
あってほしい。歌つている歌にもその思いを
こめています。そして、その思いがせかい中の
みんなにとくことがわたしのねがいです。

かづしまの
みなさんへ
ハピネス!!

W/W *



【上白石萌歌さん】

ひとのけしきや体けん、友だちとけんかしたことなどは自分をつくる
なります。いろいろなことを一ぱんキヤツチできるじきだと
まい日、朝おきて学校に行くだけでもすばらしいことです。

まい日いろいろなことをかんじながらすごしてください。



【上白石萌音さん】

あい手がどんな気もちでいるか、これを言つたらどういう気もちになるか、そうぞう力をもつて生活してください。
うれしいことやかなしいことは大人になつて大人になつて自分をたすけてくれます。
とくにかなしいことやつらいことをいけんするとやさしくなれます。
心がうごくことはしあわせなことです。心をうごかすことを大じにしてください。

保護者の皆様へ

この本は、鹿児島県の子供たちのために作成した道徳の教材です。子供たちが、この本に登場する人物の考え方や生き方にふれ、自分の生き方について考えを深め、夢や希望をもって過ごしてもらえることを願って作成しました。ぜひ、この教材と一緒に読んでいただき、お子さんと思ったことや考えたことを話し合ってみてください。また、さらに知りたい、深めたい場合には下に記載している【参考・引用文献】も紹介してみてください。

【参考・引用文献】(順不同)

□前田 利右衛門

「かごしま文庫『さつまいも 伝来と文化』」(春苑堂 1994年)
「令和5年度企画展図録 指宿まるごと博物館XIV 海が織りなす焼酎文化～芋・技・肴・器～」
(指宿市考古博物館 時遊館 COCOCOはしむれ)
「甘藷翁物語」(三州談義社 1966年)

□西郷 隆盛・土持 政照

「西郷隆盛と沖永良部島」(和泊町郷南洲顕彰会 2011年)「郷土の先人(土持 政照)」(和泊町教育委員会)
「えらぶの西郷さん」(和泊西郷南洲顕彰会 1988年)

□鶴田 義行

「(財)日本オリンピック委員会監修『近代オリンピック100年の歩み』」(ベースボール・マガジン社 1994年)
「南日本新聞社編『郷上の人系 中巻』」(春苑堂 1969年)「知ってるつもり」(日本テレビ 1992年)
「郷上教育 第6号」(鹿児島県総合教育センター指導資料 2021年)
「文藝春秋 第98巻第1号」(文藝春秋 2020年)
「オリンピックを通してつかんだ水泳の心」(鹿児島県総合教育センター読み物教材 2021年)
「南日本新聞「かごしま20世紀」河こえて」(南日本新聞社 1999年)
「伊敷地域ガイドマップ」(伊敷地域まちづくりワークショップ 出版年不明)

「日本の金メダリスト事典1 夏季オリンピック・冬季オリンピック編」(ベースボール・マガジン社 2018年)

「失敗図鑑 健人・いきもの・発明品の汗と涙の失敗を集めた図鑑」(いろは出版 2018年)

□八島 太郎

「八島太郎 - 日米のはざまに生きた画家 -」(創風社 2008年)

【協力】(敬称略、順不同)

東宝芸能(株)／株式会社ザ・マイカホリックス／指宿市考古博物館 時遊館 COCOCOはしむれ／
西郷南洲記念館／西郷南洲顕彰館／和泊町教育委員会／和泊町立和泊小学校／南大隅町教育委員会

貞竹 山子／山田 みほ子／假屋園 啓彦／島津 公保／下豊留 佳奈／野間 友兄／水里 智広／
山下 久美子／泉 宗弘／山口 親悟／長蘭 誠／前畠 あさよ／塩溝 貞徳／所崎 陽／池来須 隆子／
坂口 洋輔／安樂 朋陽／梅 千明／諸平 幸奈／西原 真琴／西村 優子／毛利 秀喜／富吉 祐輔

学習内容一覧			
	主題名	教材名	内容項目
1	かんしゃの 気もち	わたしたちの 家ぞく	B 感謝
2	ちがっていても なかよく	ママが 教えてくれたこと	C 公正、公平、社会正義
3	みんなの ために	利右衛門さんの からいも	C 勤労、公共の精神
4	あい手の 気もちを 考えて	たすけられた さいごうさん	B 親切、思いやり
5	くじけない 心で	くるしさを のりこえて	A 希望と勇気、努力と強い意志
6	ふるさとを 思う 気もち	人を 思い ふるさとを 思う	C 伝統と文化の尊重、国や郷土を愛する態度

「読み物資料～1・2年生用～」

令和7年2月発行

編集・発行 鹿児島県教育委員会

〒890 8577 鹿児島市鴨池新町 10番 1号

この本の副タイトルについて

副タイトルを「今日、どの先人？（きょう、どのせんじん？）」としました。

その理由は、以前、私たちが作成した「郷土の先人（きょうどのせんじん）」の続編（4作目）であるからです。

また、これまでの教材を含めて「今日は誰の話を読もうかな」と前向きに思ってほしいという願いも込めています。